

平成21年 4月30日現在

研究種目：基盤研究(B)  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18401011  
研究課題名(和文) 北京・天津を中心とした華北の廟会と祭祀組織「香会」  
の実態研究  
研究課題名(英文) Reality study of the temple festivals and Xianghui entertainment troupes in Huabei area in which it centered on Beijing and Tianjin  
研究代表者  
櫻井 龍彦 (SAKURAI TATSUHIKO)  
名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授  
研究者番号：60170643

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：宗教学、中国哲学、文化人類学、民俗学、民間信仰、廟会、道教、仏教

## 1. 研究計画の概要

研究の目的は、北京と天津を中心とした華北地域における復活した廟会およびそこに参拝する民間の祭祀・芸能集団の組織としての実態を調査し、その現代的意義について明らかにすること。同時に組織の活動基盤にある碧霞元君と媽祖への女神信仰の諸相を調べ、組織活動のなかでの信仰の位置づけをすることにある。

調査対象は北京では妙峰山と丫髻山の定期廟会および春節(旧正月)の廟会と各組織の活動、天津では媽祖文化節と天后宮の「皇会」組織活動である。方法としては、以下の5点を中心とした。

- (1) 年間を通じた廟会の調査。
- (2) 廟内の石碑を悉皆調査し、碑文の解読を通して祭祀組織の歴史と構成を探る。
- (3) 祭祀組織の構成員に対する個別訪問による聞き取り調査。
- (4) 華北の他の農村の廟会調査。
- (5) 日本で閲覧が困難な内部資料の収集である。

## 2. 研究の進捗状況

上記概要に記した番号にそって述べる。

- (1) 毎年春期廟会の調査をしている。秋季廟会は妙峰山にだけあり、こちらも実施済み。天津では現在定期の廟会はないが、9月の媽祖文化節に参加した。春節廟会は2007年に調査した。
- (2) 妙峰山と丫髻山の石碑は調査が終了し、報告書と論文に解読結果と概要を発表した。
- (3) 3年間で北京では約60の会組織、天津では30以上の会組織を調査した。そのうち聞き取りの文字おこしと整理がおわり、報告書に掲載できたものは北京では14会、天津では23会である。
- (4) 北京の廠甸廟、東岳廟、地壇廟、白雲觀の各廟会、河北省景忠山の廟会と麓の会組織、北京平谷区の峨嵋廟、軒轅廟、青島の天后宮などが調査できた。とくに景忠山、平谷区の峨嵋廟は調査の可能性が低かったため、大きな収穫である。
- (5) 妙峰山廟会に関する資料をA4コピーで4000枚近く収集できた。

碧霞元君と媽祖への女神信仰の位置づけは、この3年間の調査によって、道教神に観音信仰を中心とする仏教と王奶奶神に対する土着の民間信仰が習合したシンクレティズムに注目する視点を獲得した。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

北京の調査については平 18, 19 年度の成果をまとめ、2008 年 3 月『妙峰山の記憶と記録』(中国語、総 443 頁)を出版した。天津の調査については平 18, 19 年度と 20 年度前半の成果も入れて、2009 年 3 月『天津皇会与民間祭祀・芸能組織的調査記録』(中国語、総 287 頁)として出版した。毎年、個別訪問調査をした祭祀組織の調査結果をきちんとした形で出す計画を着実に実施している。研究の成果も2回の学会発表と4本の論文で出している。協力者の論文も報告書に合計 15 本収録した。

### 4. 今後の研究の推進方策

- (1)平成 20,21 年度の調査報告書を出す。
- (2)2009 年 8 月に中国で開催される「民間信仰と文化遺産」をテーマにした国際会議で発表する。
- (3)妙峰山、丫髻山以外で華北地域の碧霞元君信仰に関する廟を調査する。
- (4)祭祀組織の個別訪問踏査の継続と従来の調査結果から重要と思われる組織の再調査をする。
- (5)祭祀・芸能集団が無形文化遺産として登録される傾向がみられるので、国の宗教政策と文化保護政策とを関連づける視点を取り入れてみる。
- (6)「社区」(コミュニティ)での祭祀芸能集団の役割や宗教アイデンティティについて

考える。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 櫻井龍彦「仏教と道教のシンクレティズム—碧霞元君、媽祖、観音の習合について」櫻井龍彦・尚潔・王利文編著『天津皇会与民間祭祀・芸能組織的調査記録』、2009、pp258-269 査読無
- ② 櫻井龍彦「丫髻山における碧霞元君信仰—廟宇と石碑の現状」『名古屋大学中国語学文学論集』20、2008、pp29-62 査読無
- ③ 櫻井龍彦「妙峰山における「香会」の復活と現代的意義」『中国学の十字路口—加地伸行博士古稀記念論集』、2006、pp524-538 査読無
- ④ 櫻井龍彦「日本の媽祖信仰-其分布及現状」(中国語論文)『中華媽祖文化學術論壇論文集』、2006、pp28-33 査読無

[学会発表] (計 2 件)

- ① 櫻井龍彦「日本の媽祖信仰—其分布及現状」(中国語)、「天津媽祖文化學術論壇」2006 年 9 月 21 日、天津
- ② 櫻井龍彦「妙峰山廟会に集う人びと—復活した民間の信仰組織「香会」について」、平成 18 年度「老舎研究会」2006 年 9 月 1 日、大阪

[図書] (計 2 件)

- ① 櫻井龍彦・尚潔・王利文編著、名古屋大学国際開発研究科、『天津皇会与民間祭祀・芸能組織的調査記録』(中国語)、2009、総 287 頁。
- ② 櫻井龍彦・孫慶忠編著、名古屋大学国際開発研究科、『妙峰山の記憶と記録』(中国語)、2008、総 443 頁